

鼠径部ヘルニアとは？

- 鼠径部とは、「脚の付け根の上の部分」を指します。右脚と左脚があるように鼠径部も右と左があります。
- ヘルニアとは、「体の組織や臓器が本来あるべき場所から飛び出してしまう」ことです。
- 鼠径部ヘルニアとは、鼠径部に何かが飛び出してきたことによって鼠径部が膨隆した状態になることです。

症状は？

立位では膨らみ、臥位ではへこみます。

どうして鼠径ヘルニアになるのか？

簡単に言うと、筋肉に裂け目ができ、この裂け目から腹膜が嚢状に飛び出してきた状態です。治すためには、手術により飛び出した腹膜を元に戻すか切除を行い、裂けた筋肉を修復しなければなりません。ズボンの膝の部分が裂けたときに布を当てて修復することと同じことです。

ヘルニア手術の難題

鼠径部ヘルニアの手術は、約30年前に再発が極端に少なく、痛みが少ないと言われたテンション・フリー法（メッシュを使用する方法）が日本に導入されたのですが、再発率は以前の方法から極端に減少したとは言い難く、さらに悪いことにはメッシュの不適切な留置、慢性疼痛や感染（合併症と言います）などの問題が現在では報告されるようになってきました。テンション・フリー法の最大のデメリット（欠点）は、異物が体内に残るという点です。実は、非常に繊細で正確さが要求される手術です。

ヘルニア専門外来について（鼠径部ヘルニア）

当ヘルニア専門外来では、上記のような合併症を最小限にするべく2007年から腹壁ヘルニアに特化した専門性の高い手術を現在まで追求してきました。通常、病院ごとに手術方法（使用するメッシュによる方法や腹腔鏡手術）が固定されることが多いのですが、当院では患者さんに合わせたメッシュ（大きさ、材質、形状、アプローチの方法など）を選択し手術を行っています。それぞれのメッシュの特性を生かした手術を行うことで、患者さんにとって最大限のメリットを生み出すように心掛けています。年齢や全身疾患の有無などを考慮しメッシュを使用しない手術法（従来法と言います）も行います。鼠径部ヘルニアの手術は、「簡単な手術」と世間では言われています。実は、医療者側からの視点では決して簡単な手術とは言えません。しかしながら、患者さん側の視点では簡単な手術としてとらえることはできます。簡単というのは、体に対するダメージが少なく手術後もすぐに社会復帰ができるという点です。手術をすると社会復帰が遅くなるのではないかと、なかなか手術に踏み込めない方が多いとは思いますが専門性の高い施設での手術であれば社会復帰は早く、日常生活に支障を与えることが少ないものですので一度診察に来られることをお勧めします。

鼠径部ヘルニア手術における入院の流れ

入院期間:2泊3日(全身麻酔以外)と3泊4日(全身麻酔)を基本としています。

手術方法:当院では、鼠径部切開法と言われる方法と創が小さいとされる腹腔鏡手術の両方を採用しております。腹腔鏡手術の方が、創が小さく痛みが少ないと言われていますが鼠径部ヘルニアに関しては、その限りではないと当院では考えております。通常の鼠径部切開法でも創の大きさは4-5cm程度であり、手術操作が確かであれば術後の痛みは軽度です。また人によっては、局所麻酔での手術も可能ですので、より侵襲は少なくなります。手術方法に関しましては、受診時に手術法の説明を行い相談しながら決めていきます。

当院で採用しているメッシュ

鼠径部切開法

ULTRAPRO HERNIA SYSTEM・URTRAPRO PLUG:ETHICON 社

Direct Kugel Patch・Perfix Light Plug:BARD 社

プログリップメッシュ: COVIDIEN 社

腹腔鏡下手術

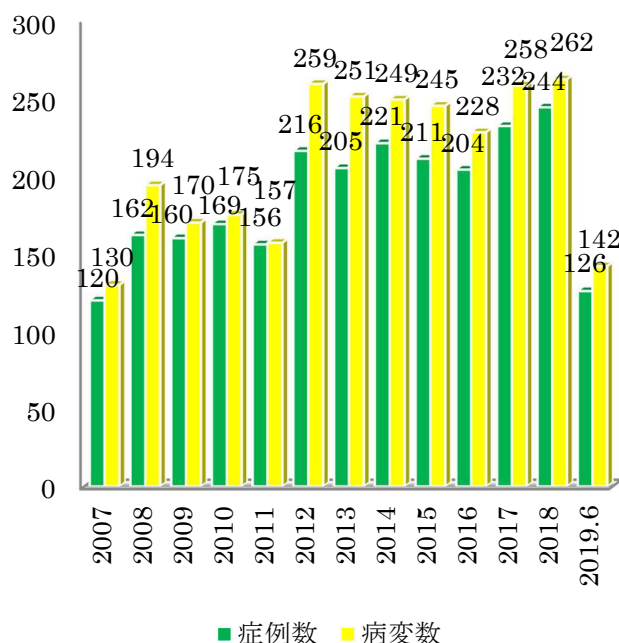
Parietex 3Dimension mesh・Varsatex Monofilament mesh・Lap progrip:COVIDIEN 社

3DMax Light:BARD 社

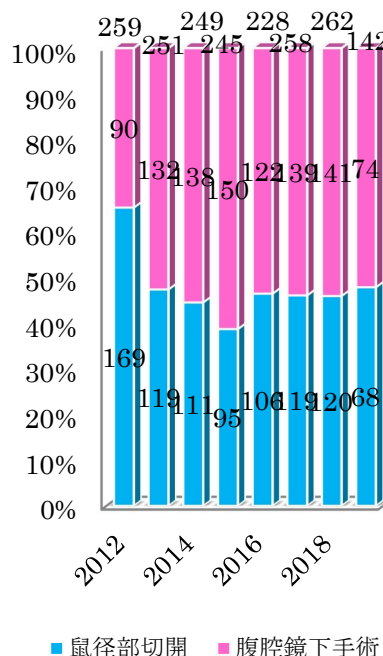
ULTRAPRO MESH:ETHICON 社

手術実績(2007年～2018年)

手術件数



腹腔鏡下手術の割合(病変数)



再発率:0.3%(8/2720)【鼠径部切開法:0.2%(4/1734)腹腔鏡下手術:0.4%(4/986)】

8病変(鼠径部切開法:4病変、腹腔鏡下手術:4病変)当科受診したもののみ

腹壁ヘルニア手術における入院の流れ

入院期間：手術方法により異なりますが、1週間～2週間程度です。

手術方法：開腹手術と腹腔鏡手術とがあります。2012年4月から腹腔鏡手術が保険適応となったことから腹腔鏡手術も導入しておりますが、患者さんの状態に応じて術式を検討し、最善と考えられる方法を選択します。受診時に主治医の説明をよく聞いて手術を受けるようにして下さい。腹壁ヘルニアも鼠径部ヘルニアと同様、メッシュを使用しますがヘルニアの大きさにより使用するメッシュを使い分けています。腹壁ヘルニアは、再発が多いため専門施設での手術が薦められます。当科は、全国的にも症例数が多い病院の一つです。

臍ヘルニア手術における入院の流れ

入院期間：3泊4日程度

手術方法：基本的に開腹手術となります。創は臍を切ることのみでできるため、通常、腹腔鏡は使用しません。大きくない臍ヘルニアであれば、術後は手術部が臍のようになってしまうので術後の創部とはわからなくなることも多いです。

腹壁ヘルニア(鼠径・大腿ヘルニア、臍ヘルニア以外)

手術実績(2011年～2018年)

腹腔鏡手術(腹壁ヘルニア)割合

